

- 第22回以降、教育関係の有識者、システム関係の有識者、教育現場、民間事業者、関係団体へのヒアリングを行う。
- ヒアリングの都度、意見交換を行い、検討事項のブラッシュアップを行う。

スケジュールイメージ

- 5月～8月：教育現場における実態、ニーズ、課題と具体的な活用ケース（検討事項①、②）
ニーズから導かれる必要なシステム構成や機能等（検討事項③）
- 9月～10月：各ステークホルダーの役割分担（検討事項④）
- 11月～：とりまとめに向けた議論

ヒアリングイメージ

ヒアリング対象	ヒアリング観点
教育関係の有識者	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学校教育における学びの在り方とその実現のために果たすデータ利活用の役割や留意点 ・データ利活用を効果的に行うために必要な環境
教育現場	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場における実際の取組事例、データ利活用の場面や活用効果 ・現在実装しているシステム構成や機能とその理由 ・取組を進める中で困っていること、課題、今後必要なこと
システム関係の有識者	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なニーズから導かれるシステム構成や必要な機能等の考え方 ・データ利活用を持続可能な形で進めるためのステークホルダーの関与の在り方
民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・今、それぞれのシステムやツールがどのような役割を果たしているか ・学校現場のニーズや課題に対して、どのような寄与が可能か ・持続可能な環境のために必要なこと
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・教育データ利活用に期待すること ・教育データ利活用を進めるに当たっての課題

教育データ利活用を全国の教育委員会・学校に広めるために、教育データ利活用のための標準的なシステム構成や、コスト面を含めた教育データ利活用を持続可能な取組とする観点からの国、地方自治体、民間等の役割分担について検討を行う。

【検討をお願いしたいこと】

- 先進的に取組を進めてきた地域のみならず、全国の教育委員会、学校に取組を広げる観点から
- ① 教育委員会や学校現場における、教育データ利活用に関する実態、ニーズや取組上の課題を改めて整理
 - ② 教育データ利活用が効果的な具体的なケース例を設定し、その意義や効果を、教育委員会や学校の教職員等が分かりやすいように整理し、提示（①と一体的に議論・抽出）
 - ③ ③－1（①の期待に応えるために、また②において整理されるケース例を実現するために）必要となる機能やサービスの現状・課題を確認しつつ、自治体等が整備することが望ましいシステム構成や必要な機能等を整理。
③－2 その際、「将来像を見据えつつ、実現可能なところから着実に実施する」観点から、すべての自治体で最低限整備が必要なこと、各自治体がニーズに合わせて選択することができることを区別して提示する等、初めて取り組む自治体や小さい自治体等にも配慮
 - ④（これまで国レベルで整備してきた仕組みや、③で整理するシステム等を含め、）教育データ利活用を持続的に行っていくため、国、地方自治体、民間企業、研究機関等は、コスト面も含め、それぞれがどのような役割を果たしていくことが望ましいかを整理、提案
 - ⑤ 教育データ利活用に向け、その他、短期的、中期的に必要な論点があれば提案